

令和8年3月16日

伊那市長 白鳥孝様

伊那市議会 社会委員会

小林 眞由美
高橋 姿
池上 謙
伊藤 のり子
湯澤 武
二瓶 裕史
柳川 広美

認知症と共に歩む地域づくりへの提言

人口減少と少子高齢化が急速に進行する今日、認知症の人とその家族を地域全体で支える仕組みづくりは、本市においても喫緊の課題です。社会委員会では、所管事務調査のテーマに「認知症と共に歩む地域づくり」を掲げ、市民との意見交換会をはじめ、先進地への行政視察や学習会への参加など、多角的な調査研究を重ねてまいりました。

調査を通じて明らかになったのは、認知症の人の増加が見込まれる一方で、地域の支え手の減少や家族介護の負担増、生活支援体制の不足など、市民が抱える不安や課題が深刻化しているという現実です。

認知症の人が住み慣れた地域で尊厳を持って安心して暮らし続けるためには、医療・介護・地域福祉・市民活動など多様な主体が連携し、地域包括ケアシステムを深化させることが不可欠です。とりわけ、市民の理解促進、早期支援体制の強化、そして家族介護者への支援拡充は、待ったなしで取り組むべき重要施策であると考えます。

よって、本市が「認知症と共に歩む地域づくり」を強力に推進するため、下記

事項のとおり適切な措置を講じられるよう提言いたします。

記

1 市民全体を対象とした理解促進

認知症への偏見や誤解を減らし、早期相談につながる環境を整えるため、学校教育・企業研修・地域講座で「すべての世代を対象に」「認知症基礎教育の体系化」をし、さらに学習機会を増やす。

2 予防啓発の強化

予防から発症後の生活支援まで、本人と家族に切れ目なく関わる体制を構築する。

認知症予防・治療、発症時の心構えに関する支援を行う。

- ・地域の交流の場を活用した「自然な認知機能チェック」を導入する。
- ・「認知症予防講座＋個別相談」の定期開催の回数を増やす。
- ・発症後の不安を軽減するための「心構えガイド」の作成
- ・認知症の早期発見・早期治療の促進のため、医師会・薬剤師会・歯科医師会との連携強化を図り意見交換の場を設ける。

3 社会全体・地域社会の理解と支え合いの仕組みづくり

本人と家族が孤立せず、地域全体で支え合う文化を育てる。

- ・認知症サポーター養成講座の拡充と、「孤立リスクのある住民への参加を促す工夫」
- ・商店・銀行・交通機関などの職員を対象に認知症への理解と適切な接し方を学ぶ研修を普及させること
- ・イベント情報（認知症月間、ライトアップ、図書館展示など）施設情報「安心おでかけ情報」を発信する。
- ・認知症のある人が役割を持って参加できる共生型サロンや地域活動を創出すること
- ・家族介護者の負担軽減のための「ピアサポート・レスパイト支援の強化」